

障がい者福祉に関するアンケート調査

本計画を策定するに当たり、障がい者福祉に関する御意見等を広く伺うため、障がい者福祉に関するアンケート調査（以下「令和5年度調査」といいます。）を実施しました。令和5年度調査及び前計画の策定に当たってのアンケート調査（以下「平成30年度調査」といいます。）の結果を踏まえ、障がい者福祉の現状を把握しました。

令和5年度調査の期間

令和5年10月30日～同年12月1日

令和5年度調査の対象

18歳以上の障がい者 1,210人

18歳未満の障がい児 110人

18歳以上の一般人 655人

障害者手帳台帳・住民基本台帳から無作為抽出

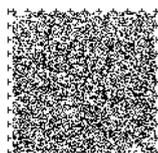
令和5年度調査の手法

調査の対象に応じた3つの調査票により実施

令和5年度調査の回答

電子申請と郵送（料金受取人払いの返信用封筒を同封）の選択式

調査対象	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	回答数（回答率）	回答数（回答率）
障がい者	623件（51.5%）	598件（54.4%）
障がい児	52件（47.3%）	47件（47.0%）
一般人	222件（33.9%）	226件（37.7%）
合計	897件（45.4%）	871件（48.4%）



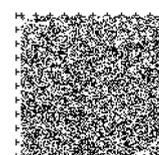
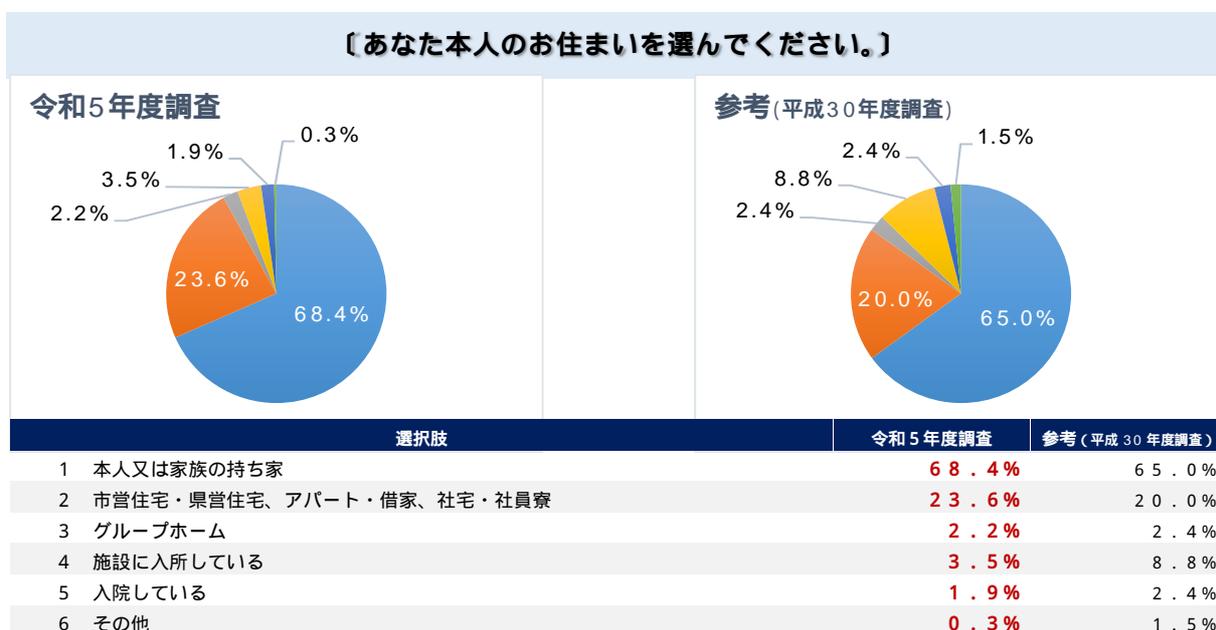
障がい者の生活状況

暮らしの状況

令和5年度調査の結果をみると、障がい者の住まいの状況については「本人又は家族の持ち家」が68.4%、「市営住宅・県営住宅、アパート・借家、社宅・社員寮」が23.6%、「グループホーム」が2.2%であることから、多くの障がい者が地域で生活している状況であることが分かります。一方、「施設に入所している」が3.5%、「入院している」が1.9%であることから、今後、地域生活への移行が見込まれる障がい者も一定数いることが分かります。

なお、「その他」の回答者は4人であり、「マンション」が2人、「お泊りのできるデイサービスで昼夜過ごしている」が1人、未記入が1人であったため、「マンション」と回答した2人は、「市営住宅・県営住宅、アパート・借家、社宅・社員寮」の人数に加えて算出しています。

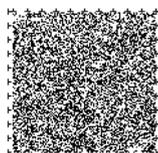
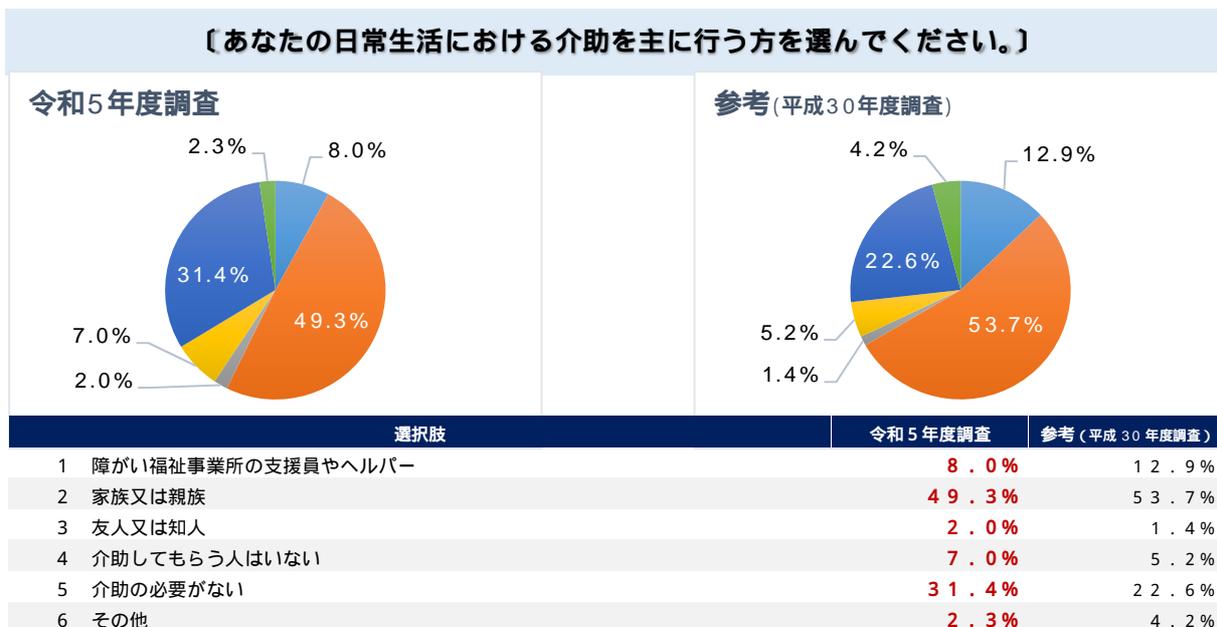
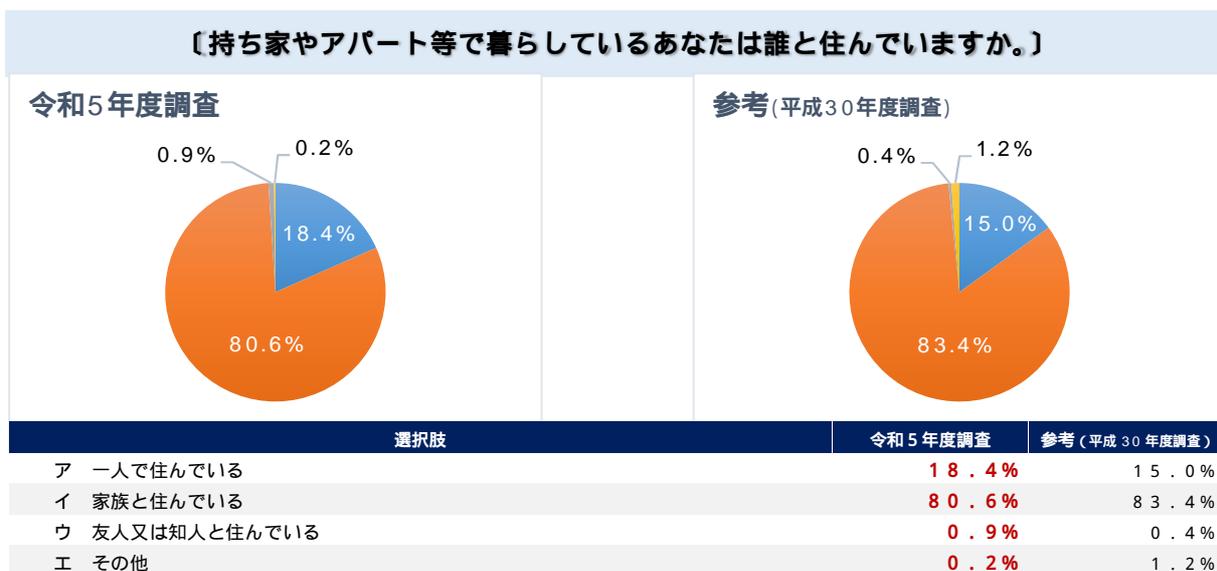
令和5年度調査の結果と平成30年度調査の結果を比較すると、おおむね同じ傾向であることから、直近5年間に於いて大きな変動がなかったことが分かります。



令和5年度調査の結果をみると、持ち家やアパート等で暮らしている障がい者の同居の状況については「家族と住んでいる」が80.6%であり、日常生活における主な介助者については「家族又は親族」が49.3%であることから、日常生活において家族の存在が大きいことが分かります。

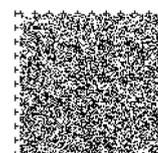
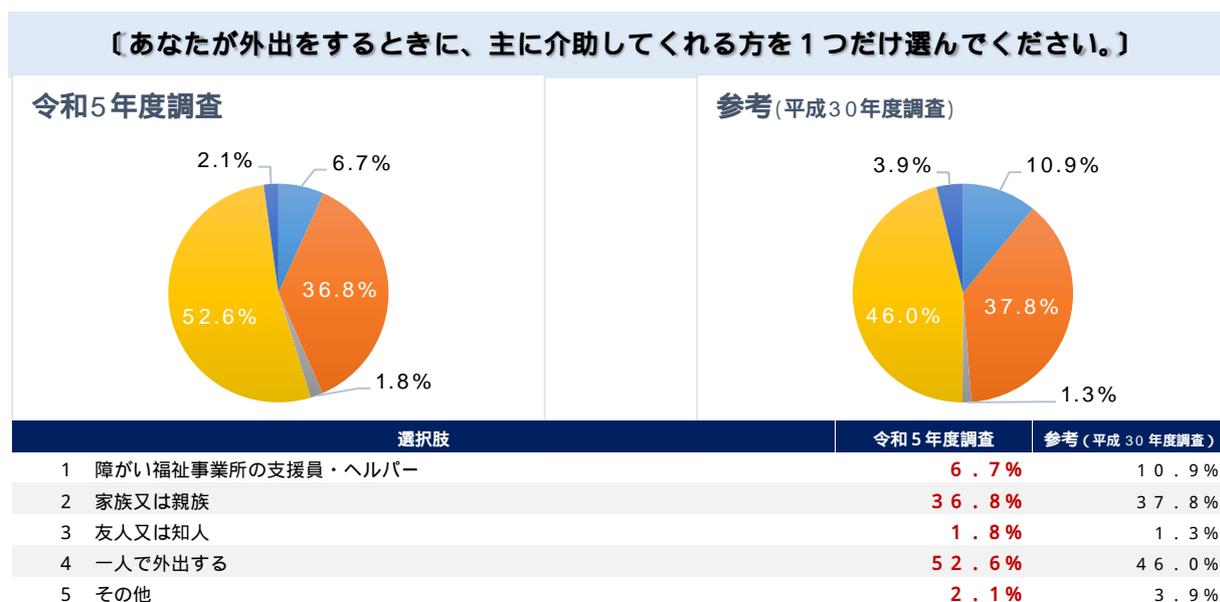
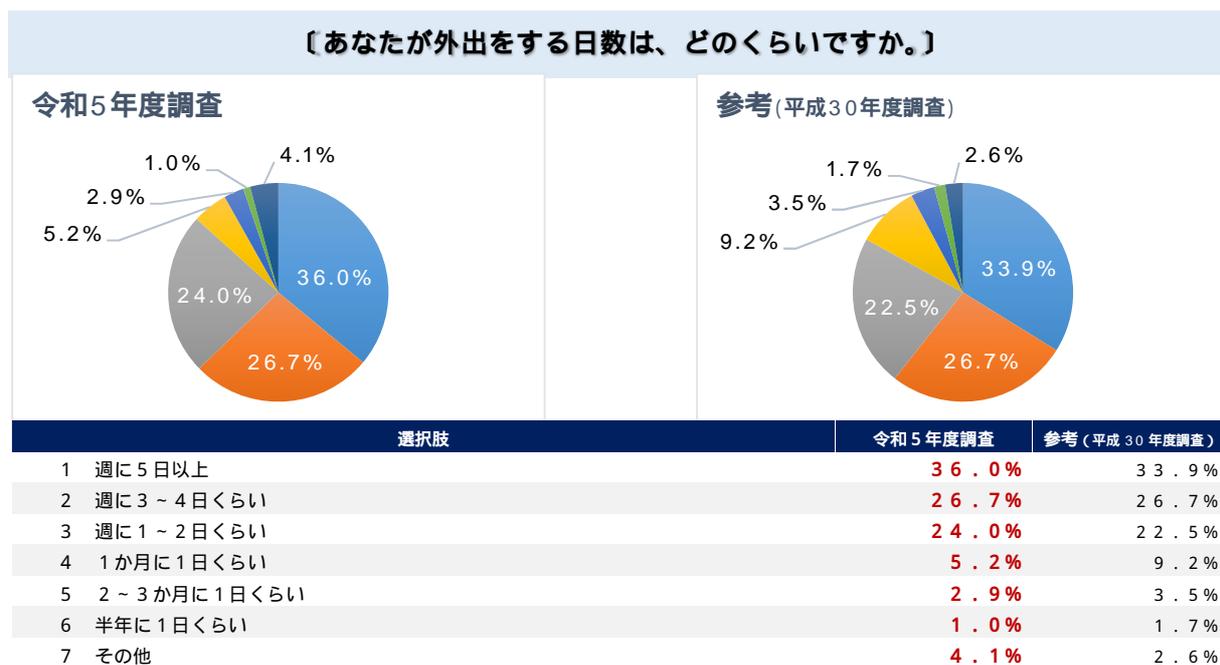
なお、日常生活における主な介助者についての「その他」の回答者は、15人であり、その回答の一例としては、「老人介護施設」「ケアマネージャー」「入院中」等でした。

令和5年度調査の結果と平成30年度調査の結果を比較すると、おおむね同じ傾向であることから、直近5年間に於いて大きな変動がなかったことが分かります。



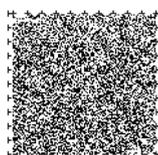
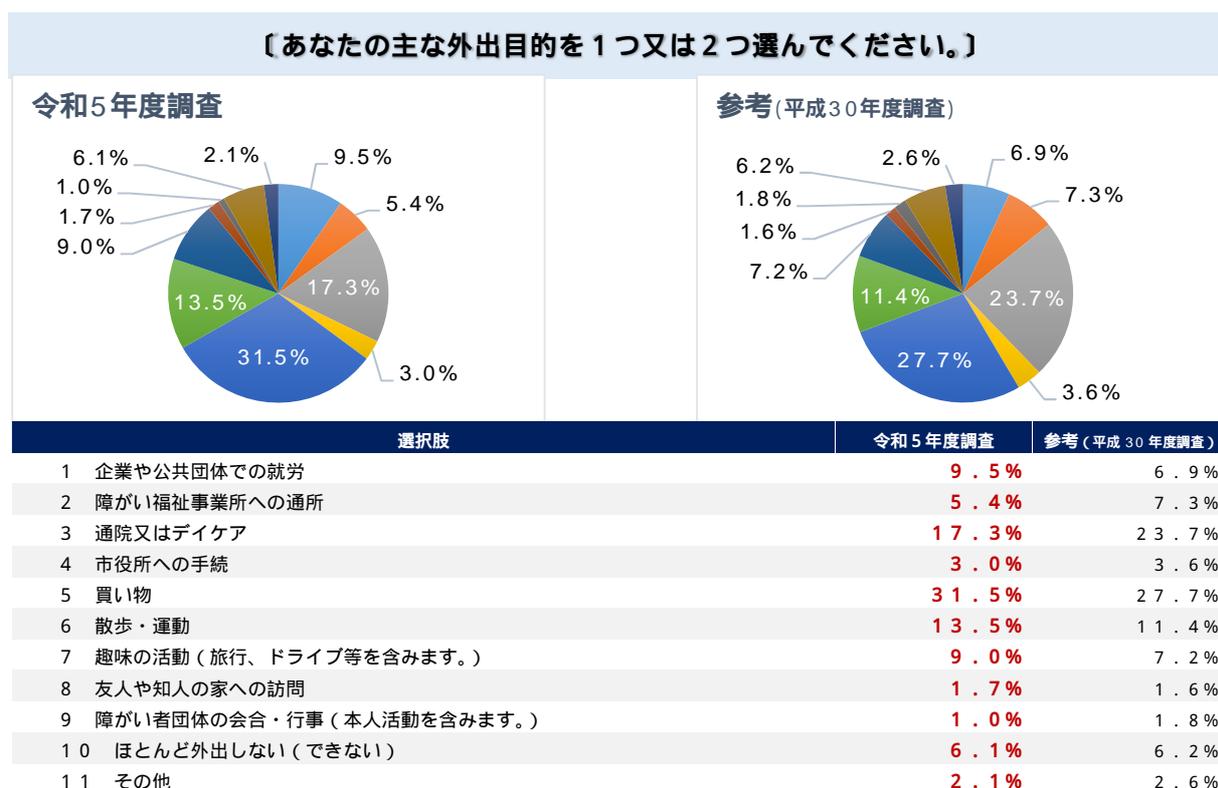
令和5年度調査の結果をみると、外出の頻度については「週に5日以上」及び「週に3～4日くらい」の合計が62.7%であり、外出時における主な介助者については「一人で外出する」が52.6%で一番多いものの、次いで「家族又は親族」が36.8%で多いことから、外出時においても家族の存在が大きいことが分かります。

令和5年度調査の結果と平成30年度調査の結果を比較すると、おおむね同じ傾向であることから、直近5年間に於いて大きな変動がなかったことが分かります。



令和5年度調査の結果をみると、主な外出の目的については「買い物」が31.5%、「通院又はデイケア」が17.3%、「散歩・運動」が13.5%であることから、日常生活を送るための外出が多いことが分かります。一方、「障がい者福祉団体の会合・行事」と回答した人も一定数いることから、障がい者福祉団体の活動が、障がい者の主な外出の目的となっていることが分かります。

令和5年度調査の結果と平成30年度調査の結果を比較すると、おおむね同じ傾向であることから、直近5年間に於いて大きな変動がなかったことが分かります。



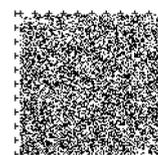
障がい者福祉団体

本市には、障がい者福祉団体の連合会である「平塚市障がい者団体連合会」があります。

令和6年4月1日現在において、平塚市障がい者団体連合会に属している障がい者福祉団体は、平塚市肢体障害者福祉協会、平塚市視覚障害者協会、平塚市手をつなぐ育成会、平塚市聴覚障害者協会、平塚市腎友会、湘南あゆみ会、平塚地区自閉症児・者親の会（平塚やまびこ会）の7団体です。

団体名	住所	電話番号
平塚市障がい者団体連合会	平塚市福祉会館内	0463 - 86 - 6102
平塚市肢体障害者福祉協会		
平塚市視覚障害者協会		
平塚市手をつなぐ育成会		
平塚市聴覚障害者協会		
平塚市腎友会		
湘南あゆみ会		
平塚地区自閉症児・者親の会 （平塚やまびこ会）		

「障がい福祉の制度案内 令和6（2024）年4月版」から抜粋



障がい者福祉団体の紹介

本計画の策定に当たり、パブリックコメント手続前に、関係団体へのヒアリングを実施しました。その際、障がい者福祉団体から、メッセージを提供していただきましたので、紹介します。

平塚市障がい者団体連合会

いろいろな障がいを抱えた団体が連合組織を組んで、令和5年に結成50周年を迎えました。

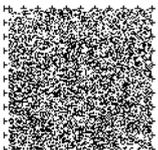
共に生きる社会をめざし、日々努力を重ねるとともに各団体の意見を集約し、市民や官庁にアピールしております。

平塚市肢体障害者福祉協会

「平塚市肢体障害者福祉協会」は、市内在住の肢体障害者・内部障害者及び家族やサポート者と共に、社会的自立と会員相互の親睦をはかりつつ活動しています。

※活動内容は、勉強会、バスを利用した社会見学、歩行訓練、県スポーツ競技大会の参加活動、ハンドベル演奏、手芸や料理教室での交流会等を通じて社会活動に参加したり、親睦会で会員相互の交流をはかっています。

障害を持って自宅にこもることのないよう、自分で行動出来る範囲で楽しく活動しています。



平塚市視覚障害者協会

視覚障害者が街を歩くときに、触覚や聴覚などあらゆる感覚を使っています。

特に危険で不安なのは、道路を横断するときです。視覚障害者が利用する場所には、音響信号が必要です。周辺住民をはじめ関係者の皆様のご理解をお願いします。

また、点字ブロックの上に置かれた自転車、道に張り出した看板や生垣は、視覚障害者には避けることが出来ません。

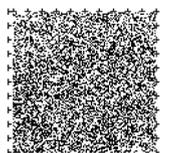
市民の皆様、安全で快適な街づくりに向けて、さらなるご協力をお願いします。

平塚市手をつなぐ育成会

主に知的障がいのある人とその家族、支援者の会です。

(一社) 全国手をつなぐ育成会連合会、神奈川県手をつなぐ育成会の下部組織として知的障がいのある人が地域で安心して、あたり前の生活ができる社会の実現に向けて様々な活動をしています。互いに悩みをわかち合い、心の不安を解消して次の一歩に繋げています。

- * 親睦会・バス旅行・茶話会等の会員同士の交流
- * お茶・麺類・会員手作り製作品を、ともいきスペース・福祉ショップありがとう・西部福祉会館・地域イベント等にて販売
- * 行政への要望活動、自立支援協議会・障がい福祉相談員等の委嘱委員
- * 会報「かわら版」発行・ウェブサイト等での広報活動
- * 障害情報発信地「ともいきスペース」(総合体育館2階)での相談・啓発活動
- * ボランティア講習会等の講師、障害年金DVD研修会等



平塚市聴覚障害者協会

本会は、会員相互の親睦を図り、また、他の団体や市民との交流を図ることによって、お互いの人格の向上と、聴覚障害者の福祉の向上を図る事を目的としています。

事業内容

手話講習会(入門・基礎)・一泊旅行・茶話会・バーベキュー会などを行っています。

平塚市腎友会

平塚市腎友会は、腎臓病患者で人工透析を行っている患者の会です。

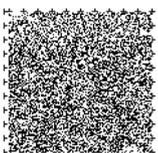
1984年発足以来、会員の福祉向上、保健医療の充実、腎臓病予防推進など私たちが安心して透析生活ができるよう活動を行っています。

平塚市では、756人が市内7施設と1病院で透析しています。

腎友会の会員は、181名で25%に過ぎませんが、何事にも組織離れがすすんでいる中、頑張っている方です。民生委員さんには、この事情もご理解いただき、平塚市内の透析患者を見守って頂きたいと思っております。

*活動内容

透析勉強会、講演会、四者懇談会(県、市、透析施設、患者会)患者懇談会、日帰り旅行、パークゴルフ大会などを行っています。



湘南あゆみ会

湘南あゆみ会は、こころの病を持つ人の家族の会です。

こころの病は、なかなか他者には分かってもらえず、当事者も家族も孤立しがちです。

家族会には、同じような経験をもつ仲間が、大勢いますから安心して話せます。

いつでも御連絡ください。交流会・勉強会・啓発活動などを行っています。

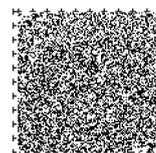
平塚地区自閉症児・者親の会（平塚やまびこ会）

自閉症（自閉スペクトラム症）は、先天的な脳の機能障がい、認知やコミュニケーション等に困難を抱えています。こだわりや感覚過敏など、一人ひとり特性が違うので、個に合わせた配慮が必要です。外見からはハンディが分かりにくく、誤解されることが多いのですが、几帳面でピュアな人たちです。

私たちは、皆が住み慣れた地域で豊かに暮らせるように活動しています。

☆親睦（茶話会・レクなど） ☆勉強会（情報交換・施設見学など）

☆啓発（会報・作品展・れいんまん広め隊・西部福祉ショップ運営など）



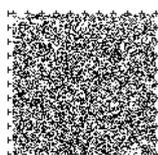
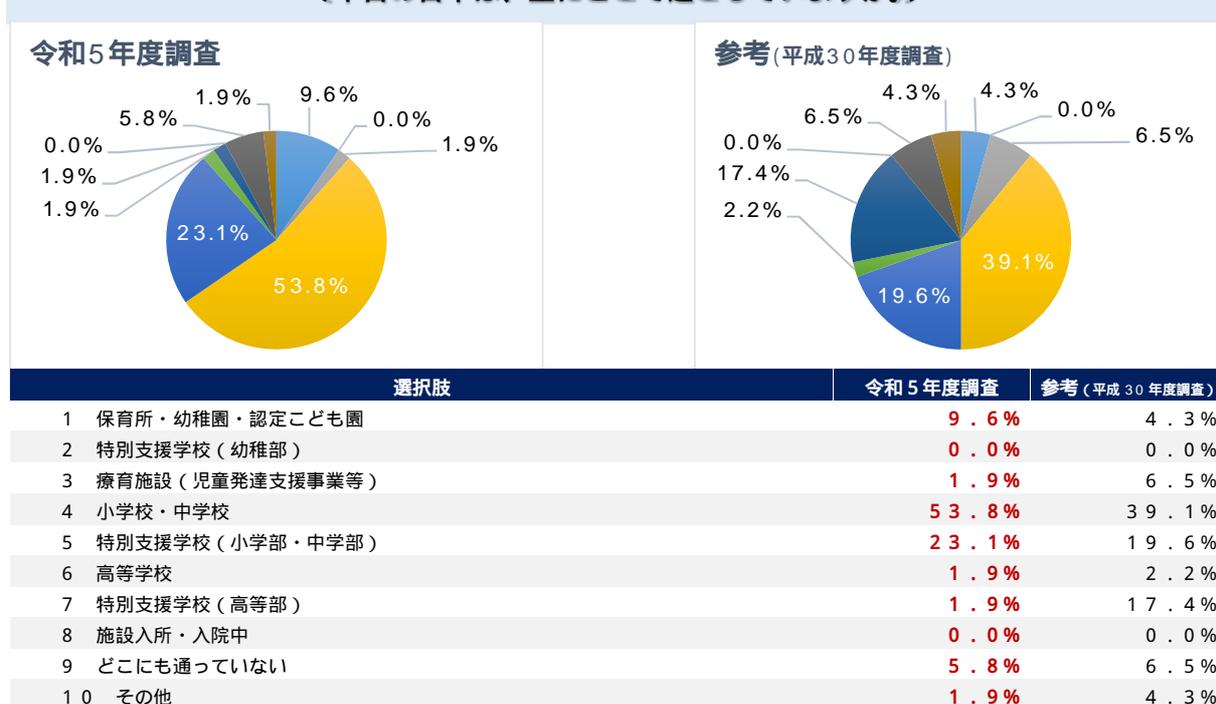
障がい児の就学状況

平日の日中の状況

令和5年度調査の結果をみると、障がい児の平日の日中の状況については「小学校・中学校」が53.8%、「特別支援学校（小学部・中学部）」が23.1%であることから、多くの障がい児が平日の日中は就学していることが分かります。

令和5年度調査の結果と平成30年度調査の結果を比較すると、おおむね同じ傾向であることから、直近5年間において大きな変動がなかったことが分かります。

〔平日の日中は、主にどこで過ごしていますか。〕



幼稚園

令和6年4月1日現在において、本市には、公立幼稚園が2園、私立幼稚園が12園の合計14園が設置されており、合計38人の障がい児が通園しています。

公立幼稚園については、在籍児数28人のうち6人が障がい児であり、その比率は21.4%でした。一方、私立幼稚園については、在籍児数1,325人のうち32人が障がい児であり、その比率は2.4%でした。よって、幼稚園全体としての障がい児の比率は、2.8%でした。

平成30年頃における幼稚園全体としての障がい児の比率が0.7%であったことから、直近5年間において、障がい児が身近になってきていることが分かります。

幼稚園における障がい児数（令和6年4月1日現在）

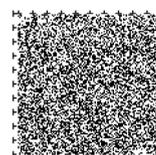
区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立幼稚園	2園	70人	28人	6人	21.4%
私立幼稚園	12園	2,520人	1,325人	32人	2.4%
幼稚園：合計	14園	2,590人	1,353人	38人	2.8%

（平塚市教育委員会学校教育部学務課調べ）

参考：幼稚園における障がい児数（公立：令和元年5月1日現在、私立：平成30年5月1日現在）

区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立幼稚園	4園	140人	66人	6人	9.1%
私立幼稚園	22園	3,770人	2,587人	12人	0.5%
幼稚園：合計	26園	3,910人	2,653人	18人	0.7%

（前計画から抜粋。平塚市教育委員会学務課調べ・神奈川県私学振興課調べ）



保育園

令和6年4月1日現在において、本市には、公立保育園が7園、私立保育園が37園の合計44園が設置されており、合計63人の障がい児が通園しています。公立保育園については、在籍児数512人のうち19人が障がい児であり、その比率は3.7%でした。一方、私立保育園については、在籍児数3,292人のうち44人が障がい児であり、その比率は1.3%でした。よって、保育園全体としての障がい児の比率は、1.7%でした。

平成31年4月1日現在における保育園全体としての障がい児の比率が1%であったことから、直近5年間において、障がい児が身近になってきていることが分かります。

保育園における障がい児数（令和6年4月1日現在）

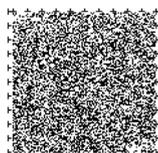
区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立保育園	7園	583人	512人	19人	3.7%
私立保育園	37園	3,294人	3,292人	44人	1.3%
保育園：合計	44園	3,877人	3,804人	63人	1.7%

（平塚市健康・こども部保育課調べ）

参考：保育園における障がい児数（平成31年4月1日現在）

区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立保育園	7園	583人	586人	12人	2.0%
私立保育園	31園	2,966人	3,123人	25人	0.8%
保育園：合計	38園	3,549人	3,709人	37人	1.0%

（前計画から抜粋。平塚市保育課調べ）



認定こども園

令和6年4月1日現在において、本市には、公立認定こども園が1園、私立認定こども園が9園の合計10園が設置されており、合計6人の障がい児が通園しています。公立認定こども園については、在籍児数111人のうち3人が障がい児であり、その比率は2.7%でした。一方、私立認定こども園については、在籍児数299人のうち3人が障がい児であり、その比率は1%でした。よって、認定こども園全体としての障がい児の比率は、1.5%でした。

平成31年4月1日現在における認定こども園全体としての障がい児の比率が1.2%であったことから、直近5年間において、障がい児が身近になってきていることが分かります。

認定こども園における障がい児数（令和6年4月1日現在）

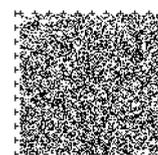
区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立認定こども園	1園	110人	111人	3人	2.7%
私立認定こども園	9園	241人	299人	3人	1.0%
認定こども園：合計	10園	351人	410人	6人	1.5%

（平塚市健康・こども部保育課調べ）

参考：認定こども園における障がい児数（平成31年4月1日現在）

区分	園数	定員	在籍児数	障がい児数	障がい児比率
公立認定こども園	1園	150人	153人	3人	2.0%
私立認定こども園	5園	685人	698人	7人	1.0%
認定こども園：合計	6園	835人	851人	10人	1.2%

（前計画から抜粋。平塚市保育課調べ）



特別支援学級

令和6年4月1日現在において、本市には、特別支援学級が、小学校に114学級、中学校に55学級設置されており、合計774人の児童・生徒が在学しています。

特別支援学級の状況（令和6年4月1日現在）

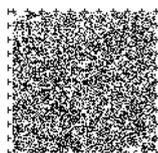
区分	小学校の学級数	小学校の在籍者数	中学校の学級数	中学校の在籍者数
知的障がい	34学級	163人	18学級	87人
肢体不自由	9学級	18人	4学級	5人
病弱・身体虚弱	6学級	6人	4学級	5人
難聴	4学級	4人	2学級	2人
自閉症・情緒障がい	58学級	330人	26学級	150人
弱視	3学級	3人	1学級	1人
集計	114学級	524人	55学級	250人

（平塚市教育委員会学校教育部子ども教育相談センター調べ）

参考：特別支援学級の状況（平成31年4月10日現在）

区分	小学校の学級数	小学校の在籍者数	中学校の学級数	中学校の在籍者数
知的障がい	31学級	137人	17学級	72人
肢体不自由	7学級	10人	5学級	10人
病弱・身体虚弱	5学級	5人	1学級	1人
難聴	3学級	3人	0学級	0人
自閉症・情緒障がい	45学級	245人	20学級	99人
弱視	0学級	0人	0学級	0人
集計	91学級	400人	43学級	182人

（前計画から抜粋。平塚市教育委員会子ども教育相談センター調べ）



通級指導教室

本市には、小学校に通級指導教室が設置されており、合計192人の児童が通級しています。

通級指導教室の状況（令和6年4月1日現在）

区分	言語障がい	難聴	発達障がい	合計
小学校	120人	8人	64人	192人

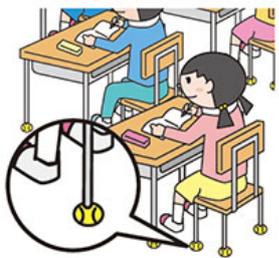
（平塚市教育委員会学校教育部子ども教育相談センター調べ）

参考：通級指導教室の状況（平成31年4月10日現在）

区分	言語障がい	難聴	発達障がい	合計
小学校	123人	12人	62人	197人

（前計画から抜粋。平塚市教育委員会子ども教育相談センター調べ）

通級指導は、障がいによる困難を改善・克服するため、一人一人の状況に応じて行っています。

<p>心身機能・身体構造 （視力、聴力、手足の動き、知的レベル）</p>  <p>聴覚過敏があり、授業のチャイム音や机・椅子を引く音など、日常の音が気になり、授業に集中できないことがあります。</p>	<p>活動 （見る、聞く、話す、書く、歩行、食事）</p>  <p>イヤーマフを付けることで、周りの音を気にせず、学習活動に集中することができます。</p>	<p>参加 （集団での話し合い、遊びなど）</p>  <p>机や椅子の脚に工夫をして引きずる音を軽減することで、より快適に授業に参加することが可能になります。</p>
--	--	---

文部科学省「通級による指導を担当する教師のためのガイド」から抜粋

